

膵癌患者におけるS-1血中濃度推移と副作用、治療効果に関する検討

著者	山本 奈歩
著者別表示	Yamamoto Naho
雑誌名	平成20(2008)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究概要
巻	2008
ページ	2p.
発行年	2020-05-15
URL	http://doi.org/10.24517/00062543



膵癌患者におけるS-1血中濃度推移と副作用、治療効果に関する検討

Research Project

All

Project/Area Number

20926016

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

医学 I -A(薬学 I)

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

山本 奈歩 Kanazawa University, 附属病院, 薬剤師

Project Period (FY)

2008

Project Status

Completed (Fiscal Year 2008)

Budget Amount *help

¥420,000 (Direct Cost: ¥420,000)

Fiscal Year 2008: ¥420,000 (Direct Cost: ¥420,000)

Keywords

S-1 / 5-FU

Research Abstract

【目的】膵癌患者に対し、S-1単独療法、S-1併用放射線化学療法、ゲムシタピン+S-1併用療法施行時における、S-1(5-FU、ギメラシル、オテラシル)の血中濃度を測定し、血中濃度と副作用発現状況、治療効果について調査し、適切な投与量、投与方法の検討を目的とする。

【研究方法】膵癌患者に対し、測定用採血は可能な限り少なくとも投与前に実施した。採血後は低温下にて迅速に遠心分離し、測定まで-30℃にて保存した。測定は、5-FUはGC-MS法を用いて行なった。副作用については、同意取得時から基本的には化学療法終了1ヶ月後までを調査し、CTC-AEversion3.0にて評価した。抗腫瘍効果については、化学療法開始前のCTと化学療法終了後のCTでの画像よりRECISTを用いて医師が評価を行った。加えて腫瘍マーカーの推移についても調査を行なった。

【結果】測定可能患者は5症例であり、そのうち膵癌は3例、胃癌1例、原発不明癌1例であった。測定はトラフ値のみ実施し、その値は 61.0 ± 37.1 ng/mLであった。効果判定結果は膵癌3例はいずれもSDであり、原発不明癌1例ではPD、胃癌1例は効果あり(RECIST評価なし)と判定された。腫瘍マーカーに関しては3例において低下傾向を示した。副作用については、吐き気、食欲不振、骨髄抑制を認めるもいずれもG3以上の副作用の発現はなく、1例において吐き気により休業したが、その後再開された。症例数が少ないためトラフ値濃度と抗腫瘍効果、副作用の発現について詳細な検討はできなかったが、膵癌においては $28.7 \sim 123$ ng/mLと個人差が大きいものの、3例ともに効果はSDであり、効果は得られていると考えられた。一方、副作用においては休業が設定された1例のトラフ値は 63.4 ng/mLであり、特別高い数値を示しているわけではなかった。

Report (1 results)

2008 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-20926016/>

Published: 2008-03-31 Modified: 2020-05-15